

大倉喜八郎 おほくら きはちろう 實業家、狂歌作家。天保八年九月二十四日越後國北蒲原郡新發田生れ、昭和二年四月二十一日没（八三—一九六）。幼名鶴吉。號狂歌の（廻）屋、和歌の門鶴彦、和歌乃家鶴彦、大倉右衛門尉鶴彦、大倉鶴彦等。嘉永年間藩儒丹波伯弘の漢學を、大極園柱の狂歌を學ぶ。幕末江戸で專業を始り、動亂を機に擴張。明治五年歐米歴遊、翌年大倉組商會を興し、海外貿易、用達專業に進出。爾來臺灣出兵を初の數次の戦役、軍需物資を調達して巨利を得、數多くの會社を創立、實業家として最初の旭日大綾章受章者となる。おれ豫て狂歌の遊び、四世彌生庵雜興、梅本蘆山人等と交はり多作。

著書に、『努力』（井上泰在編、大正五年四月十五日實業之日本社）、『狂鶴彦集』（源中平撰、大正十二年九月二十四日畑徳二郎編刊）、また、『大倉鶴彦翁』（大正十二年九月二十四日鶴彦會）、『雙の秋』鶴彦翁米壽祝賀狂歌集』（和歌廻屋・秋農屋・彌生庵撰、大正十二年十一月一日無刊記）、『鶴彦翁回顧録』（昭和十五年十月二十四日大倉高等商業學校）、大倉雄一著『逆光家族—父・大倉喜八郎と私』（昭和二十年四月一日文藝春秋）等がある。



鶴彦翁回顧録